

競技オリエンテーリングの  
楽しさを味わうことができ  
るパーマネントコースが、京  
都・宇治にある。

「太陽が丘」コース 京都府宇治市  
JOA 公認 No.789 4.0km 20 ポスト

## 新たに公認されたコース

昔々、年間 50 ものパーマネントコースが誕生していた時代がありました。今思えば夢のような素敵な時代です。一時のブームも去って久しい今、新設コース誕生は奇跡にも思えるようになりましたが、今年 4 月、京都府から一気に 3 コースもの新コースが公認された旨、JOA のホームページで報じられました。

情報を精査してみると、新たにされたコースというよりも、既に設置されたコースの公認申請がなされたということのようで、2009 年に開設されていた福知山市の三段池公園コースもめでたく公認コースの仲間入りとなっています。今回紹介する太陽が丘コースも、ネット上の情報では 2011 年 1 月 23 日にオープン済みで、1 年遅れで公認となりました。

## パーマネントコースの新機軸

JOA での登録コース名は「太陽が丘スコアオリエンテーリングコース」。地図配布場所の太陽が丘管理棟を含めてスタート地点は自由に設定してよいという変り種の設定となっています。しかし、その実態は 20 のポストを自由に結ぶフリーポイント OL で、ポストごとの得点設定はありません。ポストにはパンチ台があり、従来のアルファベットを写し取るというスタイルとは異なっています。さらに、公認の 20 ポイントを巡ったことを京都府 OL 協会に申請すると、非公認の上級コースのマップが送られてくるという新機軸が採られ、パーマネントコースの新たな仕掛けを模索していることが伺えます。旧態依然としていてはパーマネントコースの利用者増加につながり得ないことは明らかですので、こうした着想は頼もしい限りです。



## 学生で賑わうテレイン

今回は関西出張の足を活かして、金曜日の晩に京都に宿泊。翌朝 JR 奈良線で宇治へと向かいます。最初の数駅は学生で混み合う電車も、奈良観光のアクセスの主役は近鉄に奪われているようで、ほどなく空き始めます。約 30 分で宇治駅に到着。駅前のバスターミナルへと向かいます。太陽が丘に向かうバス停は階段下りてすぐのところであり、迷うことはありません。スポーツ施設の充実した公園ですので、多くの学生が集まり、間もなくやってくるバ

スを賑やかに待っています。京阪宇治駅を出発して太陽が丘へ向かうこの路線は 30 分に 1 本の間隔で運行されています。わずか 10 分で終点の太陽が丘へ。



地図は体育館で入手



## パンフレット感覚の地図

体育館にある管理事務所の始業時刻の8時半までさらに10分待つて、扉が開くと同時にマップを求めます。事務所のキャビネットあたりから取り出されるマップを受け取ることが多い中、ここは他のパンフレットと同様に、フリーで持っていけるようラックに陳列されています。マップ自体が2つ折のA4サイズで、一見パンフレットと見間違えそうになる体裁です。表紙にはポストの写真に「太陽が丘常設オリエンテーリングコース開設中」の文字。見開きに説明文と「スタンプカード」と称してポストのパンチ欄があり、ポスト位置記載済の地図が裏表紙に印刷されています。スタート地点は自由に設定可とされていますが、体育館に「パンフレット置き場」としてスタート地点を示す三角印が記されています。ただしこの地図、縮尺の表示がありません。JOAのホームページで1:5,000と明記されていたことを頭に入れていたため特に問題はなかったものの、OLの常識としては必須記載事項ですので、今後の増刷時には追記して欲しいものです。

## テンポよく展開するコース

古くから設置されている宇治平等院太陽が丘コースの最終ポストもこのコースの外にあり、初めて巡るエリアに全てのポストが設置されています。しかも道端ばかりではなく、巧みなコース設定。回る前から期待値がグッと高まります。

全20箇所、最初にマップ南西エリアの9箇所を43→36→34→48→38→35→47→42→37の順で回り、次に北側のエリアにある11箇所を49→41→31→44→32→33→45→39→46→50→40と辿るルートを選択しました。10km10ポストという一般的なパーマネントコースとは異なり、テンポ良く次々とポストを発見していくことになります。

管理棟前の広場から、緑豊かな木立の中に見える円形の池を正面に見据えて階段を下ります。途中で南に折れると舗装道路の突き当たりで最初のポストの43番を発見します。形状はまるで大会のフラッグのよう。足元に頭があり、パンチ台が取り付けられています。公園利用者が偶然ポストを見つけたとしても、利用促進につながるよう解説が掲示されているのは感心です。余談ですが、このポストにナナフシが張り付いているのを見え。8歳の少年の頃に回った佐野唐沢山で同じようにナナフシに出遭ったことを思い出しました。34年ぶりの珍しい昆虫との遭遇に大人

になった今でもワクワク感が募ります。



ナナフシ発見！

鉄塔の下での36番、茅葺屋根の小屋にある34番とチェックし、48番を沢で確認します。道を歩いているだけでポストに導いてくれるコースとは異なる設定であることを、序盤から実感します。

道を辿ってフェンス沿いにひっそり置かれた38番、広場下って小道の登り口にある35番のあと、堰の47番もアタックの面白いポスト。さらに、巨大な鉄琴(木琴?)のオブジェの横にある42番から37番へのルートは道がありません。通行可能度の高い林の中を尾根に沿って上っていきます。林から抜け出すと巨大なタイヤの横に立つ37番ポストがあり、これが表紙の写真に使われています。



巨大タイヤと37番ポスト

前半の南西エリアを順調に終了し、冒険の森と名づけられた北側のエリアの最初のポスト、49番へ向かいます。これをテラスで発見後、林を突っ切って東の道に移り、アスレチック施設の横を抜けてさらに北に進みます。途中、風の回廊という木製の歩行通路の下をくぐり、41番を道から外れて沢を下った地点で発見。元の道に戻り、かつては山のとりでという施設のあった広場で31番を確認します。新しく休憩所が作られましたが、賑わうスタート地点周辺と同じ公園とは思えないほど静寂に包まれています。

この先は行き止りのため、出戻りして西へ下る小道に入ります。49番から

続く道に出たら北に向かうと44番なのですが、道からはかなり離れた位置にあるので注意深く探しましょう。林を直進するとフェンス脇に32番、調整池の脇にある空き地に立つ樹木の脇で33番をチェックすると、コースの4分の3が終了。残すはあと5ポストです。

南に折り返し、45番は沢に隠れるように置かれています。東に上る小道を登ると尾根に到達。そのまま南へ向かうと小道の曲がり角が39番です。こうした山道でもウォーキングをする人たちとすれ違うことがあり、地元の方に親しまれていることが分かります。

鉄塔の脇で46番を見つけ、無事終了すると思いかけた50番のアタックに予想外のことが発生します。尾根から沢に下り、間もなくポストというところで、地図にも記載のある小さな貯水池が現れます。脇にでも迂回するルートが整備されていると思いきや、全くの行き止まり。フェンス越しにポストは見えしており、引き返すのも癪なので池沿いの林を突破して到達しました。芝生広場の鉄塔の横で最後の40番を確認すると、コースも終了です。



ルートに注意！ 50番ポスト

競技OLの楽しさを最初から体験者に味わってもらうことを目的とすると、こうしたコースの誕生は画期的とも言えるでしょう。私自身も適度な緊張感を保ちながら存分に楽しむことが出来ました。

同じタイミングで公認された丹波自然運動公園コースをこの満足感のまま回るべく、すぐに京都に引き返し、山陰本線に乗り換えて園部駅へと向かったのです。

詳細はまたの機会に…。

(2012年6月23日 踏破) (大高竜亮)